



山正 LINE 公式アカウント友達募集中！

レイミーの AI 病害虫雑草診断アプリ



## § 1 水稻育苗期に発生する主な病害について

今年も田植えを迎える時期が近づいてきました、今回は、育苗期に発生する病害についてまとめました。「苗半作」と言われるよう、苗づくりは重要ですので参考にしてください。

### 1)糸状菌による「イネ苗立枯病」：農薬 タチガレエース M、ダコレート水和剤

	病徴	発病条件
<p>フザリウム属菌</p>  <p>苗立枯病 <b>フザリウム属菌</b> □白~淡紅色のかび</p>	<p>根や地際部が褐変腐敗。白色から淡紅色の粉状のカビがみられる。 ばか苗病の原因菌でもある。</p>	<p>緑化期の10℃以下の低温、過湿 床土が pH5以上 畑土で発病増加</p>
<p>トリコデルマ属菌</p>  <p>苗立枯病 <b>トリコデルマ属菌</b> <span style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">土壌伝染性</span> □白~黄緑色のかび</p>	<p>苗の地際部に白色のカビがみられ、次第に青緑色に変わる。</p>	<p>土壌、施設、器材等の汚染 土壌水分が少ない場合に発生</p>
<p>ピシウム属菌</p>  <p>苗立枯病 <b>ピシウム属菌</b> <span style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">土壌伝染性</span> 出芽阻害型 □出芽前後に腐敗 急性萎凋型(ムレ苗) □立枯型と生育遅延型がある □根数は比較的減少 萎凋・立枯型 生育遅延型</p>	<p>出芽すぐの幼芽が侵され根が水浸状に褐変腐敗する。苗が2, 3葉期に急に萎凋し、やがて枯死する。赤茶けた坪枯症状を示す。 立枯症状、ムレ苗症状を示す。</p>	<p>緑化期以降の低温、過湿 畑土壌の使用 種籾の傷口から侵入 日照不足 土壌の高 PH(5.5以上)</p>
<p>リゾクトニア属菌</p>	<p>下葉や葉鞘が暗緑色の水浸状となり、葉が黄褐変する。株元や葉鞘にクモの巣状の菌糸が見られる。</p>	<p>野菜栽培後の畑土壌で多発 育苗末期の高温、多湿条件、過繁茂で多発する。</p>
<p>リゾープス属菌</p>  <p>苗立枯病 <b>リゾープス属菌</b> <span style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">土壌伝染性</span> □床土表面に白い菌糸 □根先鞘が欠く膨らむ</p>	<p>綿毛状の灰白色のカビで床土が覆われ、根の先端が膨らみ伸長が止まり、発芽不良、生育不良となり枯死も発生する。</p>	<p>土壌、施設、器材等の汚染 出芽中の高温多湿 緑化開始後10日頃までの低温</p>
<p>白絹病属菌</p>	<p>地際部葉鞘、籾、根に白い絹糸状の塊が出来のちに褐変。苗の生育不良、黄化、萎凋し枯死する。</p>	<p>畑土壌の使用により菌核が混入 緑化、硬化期間の高温多湿。</p>

## 2)「ばか苗病」

イネ馬鹿苗病菌(*Gibberella fujikuroi*)という子囊菌が種籾に付着し、成長ホルモンであるジベレリンを分泌することで発生。罹病すると苗が細く、色が淡黄色となり、健常苗の2倍近く伸長(黄化徒長)し、やがて枯死する、浸種・催芽水の中にばか苗病菌が存在する事により、浸種、催芽中に菌が増殖し健全な籾に感染します。



### <対策>

浸種、催芽で使用される機器や容器は使用前に十分に洗浄する。育苗箱・シートをケミクロン G 又はイチバンで消毒を行う。

## 3)「ごま葉枯病」

種もみや被害稲わらが発生源。苗の葉鞘に暗褐色の小斑点(ゴマ状の病斑)を形成し、生育が阻害され枯死する。病原菌の生育温度は5~41℃で、最適温度域は27~30℃です。



7月初旬に葉の病斑が発生し初めて、発生の初期は発病進展はやや緩慢で、徐々に気温が上昇する8月以降にかけて進展します。成熟期頃になると、急激に発病が進展します。

主に、伝染源は保菌種子、被害わらや籾がらです。伝染源としては、ほ場に残った被害わらの影響により、伝染すると考えられています。

### <対策>

発生しにくい環境作りを前提として、土壌改良、土づくり、施肥改善、栽培管理改善を行う。

## 4)「細菌病」

	病徴	発病条件
<b>もみ枯細菌病</b> <small>□ 腐敗臭 □ 葉鞘褐変 □ 芯葉が抜ける</small> 	幼芽は褐変、湾曲し、腐敗枯死する。緑化期には、淡褐色水浸状の病斑が現れ、葉が奇形となり、葉身基部が白化し、腐敗枯死する。 感染した苗の新葉は手で簡単に引き抜ける。	催芽～緑化期の高温(32-35℃)多湿。
<b>苗立枯細菌病</b> <small>□ 腐敗臭はなく、芯葉は抜けない □ 葉先端口ー状、乾燥枯死</small> 	苗立枯細菌病(パークホルテリア) 葉身基部が白～黄白化して、針状になり乾燥枯死する。坪状に発生。育苗箱内で伝染する。 新葉は腐敗せず、簡単には引き抜けない。	出芽～育苗初期の高温多湿
<b>褐条病</b> (アイトホラックス)	葉鞘や葉身に褐色の条斑が現れる。葉鞘の基部や苗全体が湾曲する。	催芽～緑化期の高温(36-39℃)